

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>細谷町</b>			
城東5丁目14番34号	S62.1	川又 南嶽	
ほそやちよう			
S45.4			
藩政時代は細谷村に属し、岩城街道筋の渡船場であり、細谷通り町または新舟渡と呼ばれた。明治二十二年の市制施行のとき水戸市の編入され、昭和九年の市内町名改称により細谷町となる。			
<b>細谷本郷町</b>	城東5丁目12番42号地先（路肩）	S62.1	荘司 漱雲
ほそやほんごうちよう			
S55.1			
藩政時代は細谷村に属し、岩城街道筋で、両側に中間、足軽の長屋があったので御中間町と呼ばれた。明治二十二年市制施行のとき水戸市の編入され、昭和九年の市内町名改称により、細谷本郷町となる。			
<b>細谷門前</b>	城東1丁目11番3号	S62.1	斉藤 白水
ほそやもんぜん			
S45.4			
藩政時代は細谷村に属し、宝鏡院と渋田沼のあったところである。明治二十二年市制施行のときに水戸市の編入され、昭和九年の市内町名改称により、川岸通と渋田の一部から細谷門前が新設された。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>本五町目</b>			
ほんごちようめ	本町3丁目2番18号地先（島田屋靴店前）	S63.2	吉澤 鐵子
S55.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）低湿地帯を埋め立てて開かれた町。江戸街道と岩城街道の接点をなす町屋の中心地で、本町通りといわれ、本一町目から本七町目までであった。</p>			
<b>本七町目</b>	本町3丁目13番15号地先（武士味噌糰店前）	S63.2	掛札 真直
ほんななちようめ			
S55.1			
<b>本六町目</b>	本町3丁目9番7号	S63.2	吉澤 鐵子
ほんろくちようめ			
S55.1			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>松小路</b>			
まつのこうじ	新荘3丁目1988の3番	H1.2	片岡 脩翠
S43.4			
<p>天保七年(一八三六)九代藩主徳川斉昭が、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。</p>			
<b>水門町</b>	柳町2丁目3番26号	H1.2	飯野 白延
みずもんちょう			
S51.1			
<p>藩政初期に武家屋敷地とされ、一町目口とも呼ばれたが、元禄三年(一六九〇)に水門町と名付けられた。そのころは千波湖から桜川(馬場川)への水門があったといわれる。</p>			
<b>宮下</b>	宮町2丁目73番地 (東照宮大階段下)	S63.2	飯野 白延
みやした			
S45.4			
<p>藩政初期の元和七年(一六二一)に東照宮が創建して以来、その門前にあたるため、御宮ノ下、御宮の前などと呼ばれ、町名となった。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>向井町</b>	大工町2丁目1番20号地先（国道50号 歩道）	H1.2	片岡 脩翠
むかいちょう			
S43.4			
<p>藩政初期の正保元年（一六四四）に、常葉村から町方に編入された。泉町・大工町から外堀を隔てて向い側の町のため、向町と呼ばれ、元禄三年（一六九〇）に井の字を加えて向井町となった。</p>			
<b>明星町</b>	城東1丁目4番（県営明星アパート敷地内）	S62.1	菊池 遊魚
めいせいちょう			
S51.1			
<p>昭和九年の市内町名改称で、三軒町の一部と東柵町の一部から明星町が新設された。その大部分は、水戸城の堀の一部をなしていた「明星ヶ池」の埋立地で、昭和七年に宅地化された。</p>			
<b>元白銀町</b>	南町1丁目3番35号	H1.2	関谷 寿石
もとしろがねちょう			
S41.3			
<p>佐竹氏居城時代から金細工師等が多く居住し、白銀町と呼ばれた。寛永二年（一六二五）金細工師等は田（下）町へ移され、以後武家屋敷地となり、元白銀町と称された。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>元仲ノ町</b>			
もとなかのちょう	城東3丁目1番47号（城東市民センター）	S61.3	吉澤 鐵石
S55.1			
藩政初期に開かれた武家屋敷で、整然とした三本の通りの中通りであったことから、中ノ町の名がついた。上市の仲町と混同しやすいので、昭和八年「元仲ノ町」と改称。			
<b>桃小路</b>	末広町1丁目5番10号（戸田産業前）	H1.2	関 南沖
もものこうじ			
S43.4			
天保七年（一八三六）九代藩主徳川斉昭が、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。			
<b>谷中</b>	末広町3丁目3番20号（サーパス末広町）	S61.3	関 南沖
やなか			
S44.4			
地形が谷間であったために付けられた常葉村の小字名で、享保のころ城下町と町続きになった。明治二十二年市制施行に当り水戸市に編入された。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
<b>柳小路</b>			
やなぎのこうじ	新莊3丁目6番（水商プール脇 歩道）	S61.3	阪場香津決
S43.4			
<p>天保七年（一八三六）九代藩主徳川斉昭が藩政改革の一つとして、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。</p>			
<b>横竹隈</b>	柳町2丁目5番6号（竹隈市民センター）	S63.2	加藤木攸文
よこたけくま			
S51.1			